

負ヲ窺居テ元就ニ與スル者モ無所ニ、宍戸安藝守、我身ハ居城五龍ニ居ナガラ、嫡子雅樂頭隆家ニ軍卒百餘差添テ、吉田郡山ノ城ヘ差籠ラル、

〔藝備國郡志^上安藝城池〕廣島城、今府治而屬安南郡、斯地元五箇村之一村而連于海、潮汐盈虛、船舶往來、曾毛利輝元見地之利、埋海以築城、中架五重之樓、其外大小城樓百三十六、城之内、外、屈曲之壁、圍合八千二百間餘、關門二十餘、石壁屹立而廻以深池、板橋圯路通四方、食祿之家千三百五十餘、市中

之街衢、縱橫七十町餘、農工商之戶三千五百四、口三萬六千四百四十二、祠廟四座、寺觀百七箇、寺僧千七十口、市中之板橋七條、其中大者號京橋、通東西、橋以東則安南郡也、橋以西則佐東郡也、○下略

〔藝藩通志^六安藝〕廣島府 疆域形勢

廣島府は地安藝沼田二郡に亘る、大抵京橋川より東は安藝郡、西は沼田郡なり、舊稱五箇庄^{○註略}

其廣島と名けしは、その地廣く四方水にて繞れるを以なるべし、俗傳る説あれども今取らず、抑此府は天文文祿の比、毛利氏數州を并吞して、高田郡吉田に在しが、その地狭く且邊僻なるをもて、新にこの城郭市邑を創造して移り居しが、慶長庚子^{○五年}福島氏これに代り、ますく城池を修め、遂に全備に至る、元和丙辰^{○年}二本藩紀伊より封をこゝに移し給ひ、すべて舊制に依り、おのづから一藩の鎮府となり、永く帶礪の盟を保てり、

府の地廣平沃衍にして、四方皆封内の郡邑なれど、三隅は岡嶺立並びて府を護衛し、南の一隅は江海外に環り、島嶼亘帶して遙に屏障をなせり、巨川北より來り、直に郊郭を衝くが故に、城北にて數派に分ち、水勢を殺げり、城の左に二派、右に三派を通ず、本末東西の別ありといへど、並に南流して海に入る、城南更に二港を鑿ち、海に通じて舟運に便す、四民繁殖、百貨輻湊し、實に中州の重鎮にして、山陽第一の都會たり、

〔陰德太平記^{七十五}〕輝元卿被移城於廣島事